

～日頃市地区の取り組み～

住民ワークショップ「日頃市の未来を語る会」の開催

- 第1回…日頃市の住みよいところ、住みにくいところ
- 第2回…日頃市の集落行事や各種団体の活動など現状を共有する
- 第3回…日頃市の将来像に向けて取り組みたいこと、取り組んだ方が良いと思うアイデアを出し合う
- 第4回…取り組みのアイデアをアクションに練り上げる
- 第5回…アクションの実現に向けてどのように実現できるか話し合う

「日頃市の未来を語る会」での成果を基に、地区の将来像やその実現にあたっての課題、住民が取り組むべき活動をまとめた「地区づくり計画」の策定

「地区づくり計画」を実践するためにふさわしい体制「地区運営組織」を構築する

地区運営組織が中心となって、地区づくり計画に基づいた活動を行うことにより、地区住民が自ら考え、決定した計画を自分たちで実行することができる、住民主体の地区づくりが始まる

住民主体の地区づくり ～県内の事例紹介～

■奥州市水沢真城地区「真城地区振興会」



真城地区振興会では、真城地区コミュニティ計画を策定し、住民主体の地区づくりが進められています。中学生がリーダーとなり、小学生と勉強やレクリエーションを行う「寺子屋」や、高齢者対象の「真城大学」など、各世代が地区づくりに参加できる仕組みがあります。

振興会と地区内の若者との懇談会から生まれた「ちーむやなぎ(仮)」は、花見やビアガーデンなど季節に応じた行事の企画運営のほか、地区をPRするための横断幕や、地区のシンボルとなるロゴマークを作成するなど、若者の自由な発想を生かした地区づくりを実践しています。

■一関市大東町曾慶地区「結いネットそげい」

「結いネットそげい」では、地区づくりに地元「そば」を活用し、生産から販売までを行うとともに、住民が一丸となって曾慶ブランドの確立を目指しています。

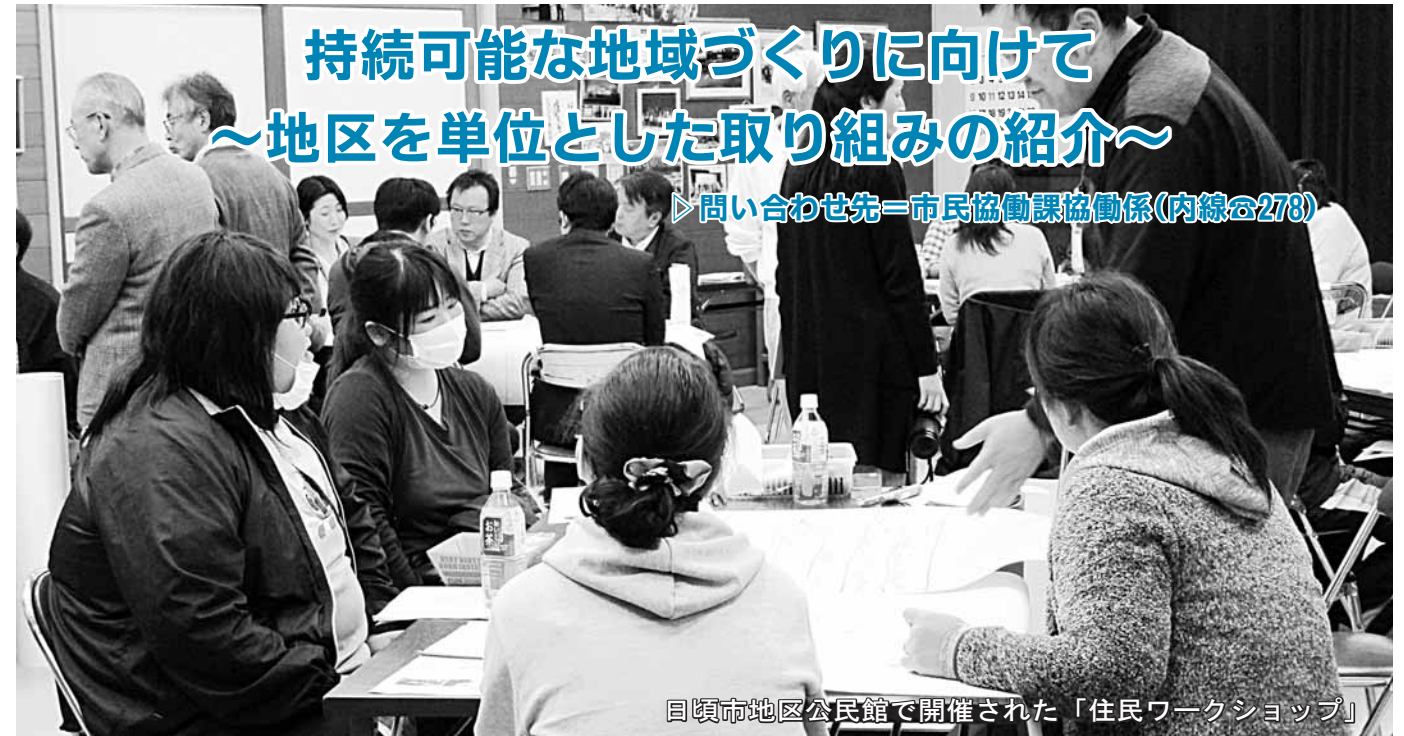
また、14年ぶりに夏まつりを復活させるなど、地区住民の声を具現化させる取り組みを進めています。

**住民参画を
広げていくために**
地区の将来像や、地区が抱える生活課題は地区によって異なります。
市は、各地区で住民参画の広まりと地区固有の課題解決に向けた活動の活発化を図られるよう、大船渡市市民活動支援センターなどと連携しながら、地区との協働のまちづくりを推進します。



**日頃市地区公民館
山下通館長**

ワークショップを実際に行ってみて、若い人たちがとても一生懸命取り組んでくれていると感じています。要望ではなく夢がある。この夢をどのようにして、私たちの手で現実にしていくかというのが、これからの課題だと思っています。まずは、住民ワークショップのメンバーの皆さんの意見をしっかりとまとめ、ひとつでも形にできるよう進めていきたいと思っています。



持続可能な地域づくりに向けて
～地区を単位とした取り組みの紹介～

▶問い合わせ先＝市民協働課協働係(内線278)

日頃市地区公民館で開催された「住民ワークショップ」

市では、人口の減少や少子高齢化の進行に対応し、将来にわたり安心して暮らせるまちをつくるため、協働のまちづくりに取り組んでいます。
本号では、日頃市地区の取り組みをもとに、地区と行政の協働のまちづくりについて紹介します。

人口減少による地区・地域コミュニティへの影響

誰もが住み慣れた地区で安心して生活し続けることは、市民共通の願いです。
しかし、人口減少や少子高齢化の影響などにより、地区や地域を取り巻く環境は刻々と変化しています。
現在でも地区役員の高齢化や担い手不足などの課題がありますが、将来的には地域経済や公共交通の運営など生活基盤に大きな影響をもたらすことが懸念されます。
また、行政も財政の規模や職員数が縮小へと向かわざるを得ないことから、住民サービスを維持することが、将来的に大きな課題となること想定されます。
これらのことから、持続可能なまちをつくるため、地区と行政の協働による新たな取り組みが求められています。

2つの協働による
まちづくりの推進と
市の取り組み

持続可能なまちであるために、地区に住む人たちが団体が互いに助け合い、支えあう地区内での協働と、地区と行政が連携・協力してまちづくりを推進する、2つの協働がますます重要になります。
市は、本年4月に新たに協働まちづくり部を設置して体制を強化しました。
今後、市民の皆さんから意見を伺いながら、新しい地区コミュニティの創造指針を作成し、地区公民館の範囲を単位とした地区と協働しながら、持続可能なまちづくりを推進します。

住民の声を地区づくりに生かすために
日頃市地区の取り組み

年代や性別、職業などにとらわれることなく地区づくりに参画し、方針の決定や活動の実践へ主体的に関わることが大切です。
■ワークショップで
地区の課題を発見する
日頃市地区では、地区公民館が中心となり、50歳未満の住民など約40人による「日頃市の未来を語る会」を立ち上げ、今後の地区づくりについて話し合う住民ワークショップを開催しています。
ワークショップは、集落支援員や大船渡市市民活動支援センターも協力してこれまで2回行われ、地区の住みよいところや住みにくいところなどについて話し合ったほか、地区の人口予測や行事の開催状況、各種団体の活動状況、地区づくりに関するアンケート結果などを共有して、地区の状況を再確認しました。
第3回からは、地区の将来像や生活課題、その解決に向けたアイデアを出し合いながら、地区で取り組み可能なものを見定めるなど実現に向けて話し合いを進め、結果を今後のまちづくりに生かしていくこととしています。